



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：整備率				指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長									
		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100	100	100	100		100	100	100	100		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 13.3	実績値 13.4	計画値 23.3	実績値 20.0	33.3	43.3	53.3	69.3	76.0	82.7	89.3	100.0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 歩車道を区分した整備により、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の目標値に達していないが、歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。	判断理由： 交付金による補助事業を行っており、近年は要望している金額に対して減額となっているため事業延長等の減が見られるが、事業内容では歩車道を区分した整備により、安全かつ円滑な通行が図られているため良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために、今後も継続して事業を行う必要があることから、「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：工事実施率	指標の求め方：実施箇所/予定箇所
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：整備率	指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 100	実績値 100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
	実績値	100	100	100											
指標	成果指標 1 (単位/%)	計画値 3.2	実績値 3.1	12.3	22.5	32.1	42.6	53.0	65.4	77.1	89.1	100.0			
	実績値	3.1	7.3	12.4											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 道路状況に応じ、効果的、効率的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰により事業費上昇の影響があるが、道路状況に応じ、効果的な改良舗装を進め、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況に応じた事業箇所の選定など、効果的な改良舗装を進めることができた。	判断理由： 物価上昇等の影響により事業効率率はあまり上がっていないが、道路の状況に応じて事業箇所を変更しており、効果的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られているため、良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 工事実施率	指標の求め方: 実施箇所/予定箇所
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 設置率	指標の求め方: 設置累計基数/7期総計の計画基数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計 画計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100	計画値 100	実績値 100		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 10	実績値 10	計画値 20	実績値 20	計画値 30	実績値 37	計画値 40	実績値 50	計画値 60	実績値 60	計画値 70	実績値 80	計画値 90	実績値 100
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。	自己分析: 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。	自己分析: 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られたことに加え、老朽化対策も進められた。 また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られたことに加え、昨年度より起債（緊急自然災害防止対策事業債）を活用してきたことにより、適切な財源の確保及び事業促進を図ってきた。	判断理由: 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全、円滑化が図られた。また、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られ、灯具のみ更新する箇所を増やすことにより、事業進捗を図っているため、良好と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られているため、今後も継続して使用し、夜間の道路交通の安全、円滑化を図るためにも街路灯の設置は必要と考えるため「現状のまま継続」とした。 また、緊急自然災害防止対策事業債などの起債を活用し、老朽化による倒壊等も起こさないよう事業促進を図る必要がある。				R8:				R10:						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：年間パトロール距離	指標の求め方：年間パトロール実施距離
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故	指標の求め方：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故発生件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/Km)	計画値 実績値	1,434 1,434	1,434 1,434	1,434 1,434		1,434 1,434	1,434 1,434	1,434 1,434		1,434 1,434	1,434 1,434	1,434 1,434	1,434 1,434	
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0 0	0 1	0 0		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				問題がある										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 老朽化が激しく更なるパトロール強化が必要となる。	自己分析： 道路施設や河川施設の老朽化はこれまでと変わらず進んでいくためこれまでと同様のパトロールが必要である。公園施設については、設置されてから30年以上経過した遊具が多く、毎年行っている点検の結果も良好とはいえない状況であり、さらに遊具使用中の事故も起きたため、パトロール強化が必要となる。	自己分析： 道路施設や河川施設の老朽化はこれまでと変わらず進んでいくためこれまでと同様のパトロールが必要である。また、昨年同様公園施設については、設置されてから30年以上経過した遊具が76箇所あり令和6年度に予算化を行い6箇所を実施する予定であるが、事故防止の観点から引き続き公園内のパトロールを行っていきたい。	判断理由： 活動指標としては達成されているが、事業成果としては、事故が1件あったことから「問題がある」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 道路施設等パトロールは、いかなる施設も経年劣化は避けられず、劣化は日々進んでいくため、市民の方々が安全に利用してもらうために必要であるため、引き続き実施していくことから「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						







【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：修繕橋梁数	指標の求め方：修繕橋梁数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：計画期間における修繕橋梁進捗率	指標の求め方：修繕橋梁延べ数 / 修繕計画数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/橋)	計画値 実績値	1 1	0 0	2 2		0 0	3 3	0 0		1 1	1 1	2 2	2 2		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	8.3 7.1	8.3 7.1	25.0 25.0		25.0 25.0	50.0 50.0	50.0 50.0		58.3 58.3	66.7 66.7	83.8 83.8	100.0 100.0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 補助金も確保され、計画通り事業を進めることができた。また、令和5年度実施事業より、制度の変更があり、修繕工事には、新工法の検討が必要となる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。橋梁長寿命化計画を令和3年度、令和4年度の点検結果をもとに更新したため、令和6年度からは新計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	判断理由： 補助金の制度も令和2年度に変更となり要望額とほぼ同額の事業実施が可能となっていることから事業の進捗に変動がなくなったため、計画通り事業を進めていくことが出来たため「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 令和4年度に計画変更を行い、令和6年度より計画変更を行った事業が実施されるが、新工法の検討が盛り込まれたことにより事業費は増額となっていく傾向となる。しかし、安全な交通を確保するためには、橋梁の修繕は必要不可欠であるため「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：					



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 除排雪委託費	指標の求め方: その年の降雪量の多さによるところもあるので計画値は設定せず実績管理のみとする
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 道路の通行を確保した路線延長	指標の求め方: 除雪路線延長

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 298,397	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000	300,000		
		実績値 349,875	384,821	352,553											
成果指標 1 (単位/Km)	計画値	233	233	233		233	233	233		233	233	233	233		
	実績値	233	233	233											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 昨年以上の大雪だったが、排雪の回数を増やすことや、堆雪場所の確保などの対応により、大きな交通障害も起こさず市道の円滑な通行をおおむね確保できた。排雪及び雪取り費用が増大したため、全体の除排雪費用が増大した。	自己分析: 昨年より降雪量は少なかったが、12月の降雪量が昨年の1.7倍となり緊急的な排雪作業も必要となり、また、同様に堆雪場所を確保するための費用が増大したため全体の除排雪費用が増大した。	自己分析: 昨年に引き続き7mを超える降雪量となった。11月の降雪が多かったが降雪時期が早く融雪が進んだため、降雪量に対して除雪費用は昨年より減となった。	判断理由: 人件費や燃料費など増加傾向であるが、道路及び雪捨て場など搬入路の確保に重点を置き、効率的な除排雪作業を行うことが出来たため「良好である」とした。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 高齢化により間口除雪が増えており、今後も堆雪場所の確保等は、降雪量にもよるが継続的に必要と考えている。また、除排雪作業を行う人材が不足していく傾向でもあり、人材確保が課題となっている。冬期間の円滑な通行を確保するため除排雪事業は必要であるため「現状のまま継続」とした。				R8:				R10:						

## 第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	雪害機械更新事業				事業期間	令和3年度～令和12年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-3	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	土木課維持係
目的 (何のために実施するのか)	冬季間の交通の安全を図るための除雪事業で使用する除雪機械（直営車両）を計画的に更新する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		老朽化した除雪機械を国庫補助事業を利用して、計画的に更新する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	補助事業の対象となる除雪機械（直営車両）						成果 (どのような効果が得られるのか)		除雪事業の委託に車両経費の安価な直営車両を使用することにより委託費が軽減される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯	補助対象基準により購入から15年以上経過した車両につき、更新要望を随時行っている。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計		
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国	費	計 画 額	0		16,000,000	16,000,000			0				0	16,000,000	
				予 算 計 上 額	0			0			0				0	0
				実 績 額	12,849,000			12,849,000			0					0
	道	費	計 画 額	0			0			0					0	0
				予 算 計 上 額				0			0					0
				実 績 額				0			0					0
	地 方 債	計 画 額	0		5,600,000	5,600,000			0					0	5,600,000	
			予 算 計 上 額	0			0			0					0	
			実 績 額	24,100,000			24,100,000			0					0	24,100,000
	そ の 他	計 画 額				0			0						0	0
			予 算 計 上 額				0			0					0	
			実 績 額				0			0					0	0
	一 般 財 源	計 画 額	0		3,400,000	3,400,000			0					0	3,400,000	
			予 算 計 上 額	0			0			0					0	
			実 績 額	66,000			66,000			0					0	66,000
事 業 費 合 計	計 画 額	0	0	25,000,000	25,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000,000		
		予 算 計 上 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		実 績 額	37,015,000	0	0	37,015,000	0	0	0	0	0	0	0	0	37,015,000	
事 業 費 予 算 の 内 容	推 移	内 容	0-1列除雪車 1台 国庫補助の結果が出るのを待ったため当初予算0。													
			前 年 度 予 算 と の 比 較 (増減理由)													
			実 績 と の 比 較 (増減理由)	国庫補助の対象となったことによる増(6月補正: 53,757千円、3月補正△16,742千円)												

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：各年度の機械更新台数	指標の求め方：各年度の機械更新台数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：各年度の機械更新率	指標の求め方：各年度の機械更新台数 / 各年度の機械更新計画台数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計	
指標	活動指標 1 (単位/台)	計画値 実績値	1 1	—	—		—	—	—		—	—	—	—			
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	—	—		—	—	—		—	—	—	—			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている											
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない											
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない											
	総合評価					極めて良好である											
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 15年以上経過した車両を申請しても採択が確実ではないため、粘り強く申請していく。	自己分析：	自己分析：	判断理由： 当初の計画通り車両の更新は、進んでいるため「極めて良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性					現状のまま継続											
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 現在のところ、道路管理協同組合に委託しており、民間各社での車両の不足は生じていないが、市内の除排雪作業に影響が出ないよう継続的な更新と場合によっては増車も必要であることから「現状のまま継続」とした。							R8：				R10：			